第 17 回日本都市計画学会中部支部研究発表会の報告

2006 年 10 月 27 日　会場　名古屋産業大学文化センター

今年で 17 回目を迎える（社）日本都市計画学会中部支部の研究発表会ならびにシンポジウムが、平成 18 年 10 月 27 日に尾張旭市にある名古屋産業大学（文化センター）において開催された。

午前中の研究発表会には、約 40 名の参加者があり、また午後のシンポジウムには一般市民を含め、約 120 名の出席者が参加して、活発な質疑応答が行われた。

1．午前の部（10：00～12：00）・・・研究発表会

例年と同様に、午前中は３階大ホールと 3 階視聴覚室の 2 会場に分かれて、合計 11 編の研究発表が行われた。第 1 セッションでは、「地域・都市交通」に関する研究発表が３編、第２セッションでは、「景観・視覚情報」に関する研究発表が３編、第３セッションでは、「都市計画論」に関する研究発表が２編、第４セッションでは、「まちづくり・地域づくり」に関する研究発表が３編、それぞれ報告され、午前中から活発な議論が行われた。

研究発表の内容は、「PT データを用いたバス路線廃止地域における高齢者交通特性の変化」に関する研究（小野宗助、他：名城大学）、「対応時間分布から見る救急車の配置の比較」に関する研究（稲川敬介、他：南山大学）、「ヒヤリハットマップの活用に関する一考察」に関する研究（三村泰広、他：豊田都市交通研究所）、「インクライン・ビレッジのデザイン・ガイドライン」に関する研究（大森峰輝：豊田工業高等専門学校）、「地区住民の空間認識における視覚化技術の有効性」に関する研究（山崎俊夫：名古屋工業大学）、「道路案内標識の実態と評価に関する調査・分析」に関する研究（東　哲、他：帝国コンサルタント）、「中国の都市計画理念の変容について」に関する研究（劉　嘉菌、他：岐阜大学）、「サスティナブルシティと住宅政策」に関する研究（本多弘司：豊田市役所）、「地域資源に着目した観光まちづくりの可能性とその課題」に関する研究（田中雅之、他：福井大学）、「東海４県の県管理河川における河川愛護団体の実態と維持管理活動」に関する研究（浦山益郎、他：三重大学）、「環境変化に対する住民意識の日中比較について」に関する研究（薩　如拉、他：名古屋産業大学）であり、非常に多岐にわたる内容のものであった。

2．午後の部（13：30～16：30）・・・シンポジウム

午後からは、「健康とまちづくり」をテーマにシンポジウムが開催された。

東京医科歯科大学河原和夫教授による基調講演、尾張旭市岡田論氏（尾張旭市健康都市推進室長）による事例報告のあと、伊豆原浩二名古屋産業大学教授のコーディネートによりパネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションでは、「健康とまちづくりの関係」について、いろいろ議論が行われた。現状では、各自治体の予算の中で、「健康」に関する予算が少ないこと、それぞれの施策の評価が合格点（７０点～８０点）であったとしても評価されず、満点（１００点）をとらないと評価されないこと、「まちの健康」は「人の健康」につながり、「運動」を習慣化できるようにすることが大切であること、などが話し合われた。また、市民の中にも、健康に関心のある人とない人がいる。いろいろな情報を提供することが大切であるが、それを具体的に実行するのは本人であるので、一人でも多くの人に関心を持ってもらうようにすることが大切である。名古屋市の呼びかけパンフレット「車と健康のはなし」、「車と環境のはなし」、「車とお金のはなし」が参考となるのではないか。

写真　午後のシンポジウム

最後に、「行政」と「市民」はそれぞれ役割分担をして、健康で安心して暮らせるまちづくりに協力することが大切であることをまとめ、パネルディスカッションを締めくくった。

(文責：高山純一(金沢大学))